



水道事業連載 第8回 (最終回)

水道の将来を 考える

今回は、水道事業の経営改善に向けたさまざまな取り組みについて、水道課・久保木光営業係長に話を聞きました。

支出削減

——水道事業の収入源について、教えてください

水道事業は、市民の皆さんからいただく水道料金収入などによって、経営に必要な経費をまかなう独立採算制で経営しています。法律では「地方公営企業」という位置づけです。

——税金は使われていますか

原則、使っていません。水需要の減少に伴う収入減の状況下で、現行の水道料金を維持するため、民間企業の経営改善と同様にさまざまな支出削減策や料金収入以外の収入増加策を行い、経営の効率化に努めてきました。

——具体的に、どのような経営努力をしてきたのですか

平成18年度に、それまで職員が行っていた開栓・閉栓の受け付け、各世帯に送付する納付書の作成や徴収業務などを民間事業者へ委託しました。また、平成22年度には、水道営業課と水道工務課を統合し、組織のスリム化を図りました。この結果、平成17年度と27年度の支出を比較すると、約5150万円の費用を削減したことになります。

——職員数はどう変化しましたか

昭和54年度には45人の職員が在籍していましたが、平成27年度は19人まで削減しました。配水場など水道施設管理を民間に委託したり、市職員が行っていた工事を縮小したりして、経営の効率化を図っています。

——経費削減効果はいかがですか

販売水量からみた経営効率化を示す指標である1年間の損益勘定職員一人当たりの給水量（浄水場からの送水が計量され、実際に収入に結びついた水量）が、平成26年度で94万1900m³と県内市平均の65万2900



▲水道課・久保木光営業係長

m³よりおよそ29万m³多く、市部では3番目に高い数値となっています。これは職員の労働生産性が高く効率的な組織体制であることを示しています。引き続き水道水の安定供給と経営効率化の両立を図っていきます。

収入増加策 市民サービス向上策

——収入を増やすために、どのような対策をしていますか

平成16年度から21年度にかけて、一番町給水場用地や徳倉低区配水場用地などの水道課が所有する役割を終えた水道施設用地7カ所を約3億7900万円で売却し、2億3700万円あまりの売却益を得ました。一番町給水場用地は、三島市の水道事業の発祥の地で、非常に縁のある土地でしたが、経営改善策の一環として売却しました。

——市民サービスの充実も行っていきますね

平成18年度から水道料金などの業務を民間委託したことを契機に、土曜日午前中の窓口開設や平日窓口の受付時間を午後7時まで延長し、市民の皆さんが給水の申込みや水道料金の納付などをしやすいようにしました。また、コンビニエンスストアでの料金の支払いもできるようにするなど、利便性の向上を図っています。

今後も、三島市水道事業は、市民の皆さんに最少の経費で安全・安心な水を供給していくため、経営効率化と市民サービスの向上に、さらなる努力をしていきます。



▲お客様センター窓口の様子

全8回にわたり、お届けしてきた水道事業連載「水道の将来を考える」は、今回で終了します。

☎水道課 983・2657

企画展「三四呂人形—これまでと、これから—」
は、5月28日(日)まで開催しています。

歴史の小箱

三ツ谷新田の松雲寺

No.346

今回は三ツ谷新田と大名や天皇の休息所になった松雲寺について紹介します。

三ツ谷新田は、箱根西坂に点在する五つの新田集落の中央に位置しています。村の成立は、江戸時代のはじめごろと伝えられています。その名については、寛政十二年(一八〇〇)成立の地誌『豆州志稿』の「三ツ谷」の項目を見ると、村内の「旧茶屋」と呼ばれる地に茶店が三戸あったことから、この地は「三ツ屋」と表記されていたが、今では「谷」の字が用いられていると書かれています。また別から「三ツ谷」の名が付いたとする説もあります。

松雲寺は、三ツ谷新田内を縦断する東海道沿いに位置します。正保元年(一六四四)松雲院日明が構えた庵を前身とし、明暦二年(一六五六)に創建されたという日蓮宗寺院です。江



▲松雲寺境内

戸時代、東海道を通行する尾張徳川家や紀伊徳川家が休息所として用い「寺本陣」と呼ばれていました。明治六年(一八七三)からは、境内に「三谷学舎」(後の坂小学校)が開校しました。

明治十一年(一八七八)八月、明治天皇は一府十二県を巡る北陸・東海両道の行幸を催しました。馬車中心の移動であり、馬車を通れない場合は肩輿(肩に担ぐ輿)を用いたようです。右大臣岩倉具視や参議兼大蔵卿大隈重信らが供奉員として従いました。京都から東京への復路で東海道各所を巡り、十一月七日に箱根越えをされています。そのとき、小憩所として用いられたのが松雲寺の「三谷学舎」

でした。

時代はくだって昭和十六年(一九四一)十二月、松雲寺の境内が「明治天皇三ツ谷新田御小休所」として、ほかの明治天皇ゆかりの地とともに国史跡に指定されます。しかし戦後になると、これらの指定地は天皇制イデオロギーを支えるものとなされ、GHQによって、いっせいに指定を解除されました。

現在、松雲寺の山門脇には「明治天皇史蹟記念碑」が建っており、明治天皇が目にした風景に思いをはせることができます。この石碑は昭和三十八年(一九六三)に建立されたもので、宗祖日蓮聖人の遠忌法要にあわせ、十月十六日に除幕式が行われました。



▲明治天皇史蹟記念碑

ぼくのわたしの
おじいちゃんおばあちゃん

僕のおじいちゃんは背が高く、いつもいろいろな本を読んでいます。そんなおじいちゃんを尊敬しているところの一つ目は、頭がいいことです。難しいことをすらすらすら分かります。話してくるので、とてもためになります。二つ目は、英語を教えてくださいるところです。僕たち双子の家庭教師として、いつまでも元気で、長生きして欲しいです。
おばあちゃんはいつもおいしいものを食べさせてくれてありがとう。
おじいちゃん、おばあちゃん大好きです。



添田 忠雄 (68才) 芝本 町
ヒビミ (58才)
添田 啓太 (北小6年)
悠太

※それぞれのお名前は直筆です。